

名古屋市教育委員会臨時会

令和元年 7 月 25 日

午後 3 時 00 分

大会議室

議 事

日程 1 請願第 4 号 請願審査について

日程 2 令和 2 年度使用教科用図書の採択審議について

出席者

鈴木 誠 二 教育長

小 栗 成 男 委 員

船 津 静 代 委 員

梶 田 知 委 員

小 嶋 雅 代 委 員

西 淵 茂 男 委 員

教育次長始め、事務局員 19 名 ※傍聴者 35 名

(鈴木教育長)

それではただ今から教育委員会臨時会を開催いたします。

本日は多数の傍聴申し込みが見込まれたため、傍聴人の定員を教育委員会傍聴規則に定める 10 人から 50 人に拡大して受け入れておりますのでご理解のほどお願いいたします。

次に、傍聴の方も含め、ここにおられるみなさまにお願いいたします。日程第 2 の令和 2 年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導を受け、採択結果は 8 月 31 日まで非公開としております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱いとなりますので、その旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましても、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

ではこれより、日程第 1 請願第 4 号「請願審査について」を議題といたします。

審議に先立ちまして、請願者から口頭陳述を行いたい旨の申し出がありましたので、会議の運営上 5 分以内で陳述を許可したいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

それでは、請願第4号の陳述人の方、前の方へお願いいたします。

口頭陳述におきましては、会議の運営上、5分以内で行うようお願いいたします。それでは陳述をはじめてください。

【陳情人より口頭陳述が行われた】

(鈴木教育長)

以上で、口頭陳述を終了します。陳述人は席へお戻りください。

それでは審査に入ります。

まずは事務局からの説明をお願いいたします。

(樋口総務課長)

日程第1「請願審査」についてご説明させていただきます。

請願項目は、「教育出版の小学校道徳科教科書は依然として問題点が多いので採択しないこと」及び「日本国憲法の基本原理である「人権・平和・共生」の大切さを伝える教科書を採択すること」の2点を求めるものでございます。

令和2年度使用小学校用教科書「特別な教科 道徳」につきましては、教科書目録に掲載されているものが教育委員会で採択されますが、いずれの教科書も国の検定を受けたものになっております。

説明は以上でございます。よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(鈴木教育長)

特にご意見もないようです。

本請願の取扱いについてであります。第1項及び第2項ともに、まさにこれから我々で議論をして採択する教科書を決定していくという状況でございますので、「ご意見としてうけたまわる」ということでいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

(鈴木教育長)

では、次の議題に移ります。

日程第2「令和2年度使用教科用図書の採択審議について」を議題といたします。

本日は、小学校用のうち、国語、社会、生活、保健、道徳の順で審議してまいりますのでお願いいたします。

まず、「国語」について説明をお願いします。

(服部指導主事)

資料④のファイルの国語のページをご覧ください。ここには各小学校での調査研究の結果がまとめられておりますので、ご覧いただきたいと思います。

国語科の教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書の4者から発行され、その全てについて調査研究をいたしました。資料②調査専門委員会報告書をご覧ください。各者の観点別の特徴や長所のうち、特筆すべきものについて報告させていただきます。

観点1「学習指導要領との関連」では、各者とも単元ごとに学習の目標と学習過程が明確に示され、児童が見通しをもって主体的に学習できるような工夫が見られます。東京書籍では4年上36ページの単元扉に身に着けたい言葉の力が示され、45ページでより詳しく説明されています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」においては、教育出版の4年上58ページ「リーフレットで知らせよう」で名古屋市猪子石工場が、また同じく教育出版の4年下47ページ「ウミガメの命をつなぐ」で、名古屋港水族館が取り上げられていることが挙げられます。児童が内容をより身近に感じ、親しみをもつことができるばかりではなく、名古屋市の環境問題に対する先進的な取り組みを知ることで、郷土に対する愛着と誇りをもって学習できるよう工夫されています。

観点3(1)「内容の選択」では、各者とも児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようになっていますが、教育出版では、単元ごとに設定された目標を達成するための手順やポイントが明確に示されています。4年下55ページ上段に学習過程が、下段に具体的な考え方が示され、児童が主体的に取り組めるようになっていきます。また、57ページに「ここが大事」を掲載し、当該単元で扱う言葉の力が着実に身に付くようにしています。光村図書は4年上26ページ「見通しをもとう」に知識及び技能、思考力・判断力・表現力等の二つの観点を明示し、27ページ「ふりかえろう」に学びに向かう力を含めた三つの観点で学習の振り返りができるようになっています。また、単元の目標から振り返りまで、学習する内容が見開きページで見渡せるようになっており、28ページ「たいせつ」で、言葉の力が着実に身に付くようにしています。

観点3(2)「内容の程度」では、学校図書では、4年下70ページ「ドリームツリーを作ろう」や、5年下20ページ「どう考える？この投書」など、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元で、実生活の場を想定した活動や必要感のある題材が設定されています。

教育出版では、4年上34ページ「ぞうの重さを量る」で習得した学習内容を基に、36ページ「花を見つける手がかり」の学習を行うというように、段階的に学習を進めることができるような単元構成になっています。光村図書では、4年上15ページのように、各単元に「これまでの学習」があり既習内容を振り返ることができるようになっています。また、説明文では、4年上47ページ「アップとルーズで伝える」の学習の前に、練習「思いやりのデザイン」を配置するなど、段階的に学習を進めることができるようになっています。

観点3（3）「内容の構成」では、光村図書では、4年上9ページ「じょうほう」のように、2年生以上に「情報」に関する教材が配列され、情報を的確に理解し、表現につなげたり自分の考えの形成に生かしたりすることができるようになっています。また、「言葉」や伝統的な言語文化に関する教材が系統的に配列され、児童の語彙を豊かにする工夫がされています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」においては、東京書籍、教育出版、光村図書で、巻末付録にその学年で身につけさせたい語彙が種類ごとにまとめられており、児童が書いたり話したりする学習の中で活用できるようになっています。特に光村図書では4年上157ページのように「言葉のたから箱」として折り込みページにまとめられており、活用しやすくなっています。

観点5「印刷・造本等」では、各者とも発達段階を考慮した文字の大きさやカラーユニバーサルデザインが用いられています。特に教育出版では、4年上34・35ページのように、本文とイラストと頭注の配置を工夫するなど、内容と関係性を読み取りやすいレイアウトになっています。また、学校図書、教育出版は、全学年を通じて上下巻の2分冊構成になっており、ゆとりを持った紙面構成となっているとともに、重さという点において児童の負担が少なくなっています。

次に、国語科で検討すべき懸案事項について報告いたします。調査専門委員会報告書の裏面をご覧ください。懸案事項については、特に改定の要点や話題となっている事項について、説明させていただきます。

事項1「話したり聞いたり書いたりする活動が繰り返し行える内容になっているか」においては、教育出版では、「話すこと・聞くこと」の教材が4年上8・9ページのように、教科書冒頭のアイスブレイクに始まり、「スピーチ」「話し合い」「説明・報告」の各系列に分かれ系統的に学習できるようになっています。光村図書では、5年3ページの「目次」にあるように、「言葉の準備運動」として「教えて、あなたのこと」から始まって「話すこと・聞くこと」の教材が系統的に配置されています。

「書くこと」の教材では、各者とも、報告、手紙、創作文など様々な文種を扱い、日常生活と関連した内容になっています。特に教育出版では、5年下5ページ「世界遺産 白神山地からの提言 ー意見文を書こう」に、光村図書では、5年137ページ「固有種が教えてくれること」「グラフや表を用いて書こう」に、「読むこと」の学習内容を生かし「書

くこと」の学習を進める単元が設定されており、より効果的な学習が進められるような工夫が見られます。

事項4「言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などに関する学習について系統的に扱われているか」についてです。東京書籍では、5年76ページのように、単元末の「ことばあつめ」に「つなぐ言葉」「比べるときの表現」など、単元の内容に合わせて言葉の力が確実に習得できるような工夫が見られます。学校図書では、4年上112～115ページにあるような、語句の量や漢字の知識を増やすための「言葉のいずみ」と、適切な言葉の使い方を理解するための「言葉のきまり」を各学年で設定し、日常生活で生きて働く言葉の力が育成できるようになっています。教育出版では、情報の扱いに関して、低学年では「共通点や相違点を発表するとき」、中学年では「全体の中から中心部分を取り出すとき」、高学年では「原因と結果の述べ方」のように、ポイントとなる語彙や文型を取り上げ系統的に学習できるようになっています。また、2年上126ページ「この間に何があった？」でプログラミング的思考力を高めるなど、新しいスタイルの教材で言葉の特徴や使い方を学習できるようになっています。光村図書では、観点4でもお示ししましたが、2年生以上の巻末付録に、感想や評価語彙、国語で学習する用語がまとめられた「言葉の宝箱」が折り込みの形で設けられており、いつでも活用することができるよう工夫されています。

なお、国語の教科書に対しまして、「市民の声」として、ご意見を13通いただいております。机上にあります「市民の声」の青ファイルに綴じてありますので、ご参考にしてください。

以上、国語科について、報告いたしました。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「国語」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(西淵委員)

国語の教科書は、どの者も内容が充実していると思います。

今どんなご指導をされているのか、又は指導上、気を付けなければならない点があるのかどうか聞きたいのですが、例えば、三年の上、教育出版で、野良猫の単元で、お母さんの愛情を想起させるような文章なんですけど、反面、かわいがられるということと、お母さんの存在、すみません、91ページをご覧ください。「知っているわけないだろう、どこにも売っていないし、野良猫は言います、君母さんは、母さんなんて…」、この…というところが非常に考えるというか、お友達が心に留めて、野良猫のお母さんの愛情を。まあ、野良猫ですから一般的には、お父さんが子猫を育てることに関わらないという前提に立ちながら話をされるのですが、反面、色々な方がみえるもんですから、配慮しなければいけないということもあるもんですから、現状こういうものでどういうふうにやってみえるのか、

あるいは、ここの狙いですね、物語教材の。どのへんを狙っているのかっていうことを教えていただければと思います。

(服部指導主事)

趣意書によりますと、この野良猫という作品ですが、人と動物とのふれあいを描いておりまして、登場人物の性格を考える学習、これを通して、生命を尊ぶ態度を養う、これを狙いとしている作品だということです。おそらくなんですが、学校や学級それから子どもたちの状況によっては適切に配慮がなされた上で、指導の方をやっているのではないかと考えております。

(西淵委員)

ありがとうございます。きちんとした指導の狙いを持って指導されているということだと思います。ただ中には父子家庭の方もいるわけで、お母さんの愛情ということをもそのまま考えさせるということになると、非常につらい、かわいそうな思いをする子も居るかもしれませんので先生が言われたみたいな狙いを、登場人物の性格を考えながら、読むというところに焦点を当てながら、きちんと話をするべきものかなと思いましたので、意見として申し上げたいと思います。以上です。

(鈴木教育長)

他いかがでしょうか。

(小栗委員)

先ほどの委員のご意見、私も2、3回目を通させていただいて、おっしゃることもよく理解できますが、先ほど、教育委員会の方がおっしゃったようにそれぞれ考え方なんかも違うでしょうし、西淵委員がおっしゃったこともよく理解できますが、逆にプラス面とマイナス面があると思ひまして、おそらくあえて…として、そこをじっくり考えるということも一つの教育かな、なんて思っておりましたし、非常にデリケートな部分ではあるかとおもいますが、検定もきちんと通っているということと、それぞれの感性とかあとは、先生がどう教えていくかということも重要になっていくかと思ひますので、実際の教育をされるときに西淵委員がおっしゃったようなことが無いように是非、教育をしていただけると良いなと思ひました。

(鈴木教育長)

他よろしいでしょうか。

今の野良猫の題材については、注意して扱えば興味深い作品だということなのかなという感じがいたしました。

採択にあたりまして、各学校から出されております研究報告書、専門委員会から出されております研究報告書を改めて拝見いたしますと、国語につきましては、各学校からのものにつきましては、すべての項目で教育出版のものが、専門委員会の研究報告書では、特筆すべきものでいうと、教育出版のものが、各者よりも多く出されている状況でございます。ただいまのやりとりも含めて考えますと、令和２年度使用小学校用教科用図書「国語」については、教育出版のものを採択してよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

令和２年度使用小学校用教科用図書「国語」については、教育出版を採択したいと思います。

続いて、「社会」について説明をお願いします。

(中川指導主事)

社会科の教科書は、東京書籍、教育出版、日本文教出版の３者から発行されています。各小学校における研究結果の観点別傾向につきましては、資料④の社会のページにまとめてございます。調査専門委員会による調査結果については、資料②をご覧ください。それでは各者の特筆すべき点について報告いたします。資料②の社会のページをご覧ください。

観点１「学習指導要領との関連」においては、３者とも社会科の目標を踏まえ、子どもが学習を通して獲得した知識や技能を基に、考えを深められるよう編集されています。

観点２「名古屋市教育振興基本計画との関連」については、３者とも、基礎的・基本的な知識の習得と、自ら考え、判断し、表現するなど幅広い学力を身に付けることができるよう、巻末に重要語句をまとめ、学習のまとめが容易にできる工夫がされています。とりわけ東京書籍は、６年生歴史編５４ページのように、せりふを考えて４コマまんがを完成させるような活動など、学習のまとめを楽しみながら取り組める活動が取り入れられています。

日本文教出版は、５年生２３ページにあるように、「学び方・調べ方コーナー」において、学習計画の立て方の視点が示されており、基礎基本を確実に身につけながら学習を進めていけるようになっています。

観点３（１）「内容の選択」においては、３者とも、基礎的・基本的な知識を習得できるように、大切な言葉をキーワードとして示していたり、今日的な課題に対応した教材が取り上げられています。

東京書籍は、５年生下３９ページの「運輸」のように、見開きの学習内容におけるキーワードを「ことば」として提示し、基礎的・基本的な用語の意味をまとめています。また、

防災・安全教育について、4年生88～91ページにあるように、「住民との協力」の視点から取り上げたり、6年生の政治の学習でも東日本大震災を取り上げたりするなど、各学年で防災に関わる教材が充実しています。

教育出版は、5年生166ページの「まとめる」のように、調べて分かったことを整理する方法や、お互いの考えを発表し合って考えを深める方法が具体的に示されており、学習した内容が着実に身につくように工夫されています。

観点3(2)「内容の程度」においては、3者とも児童が興味・関心をもって学習を進められるよう創意工夫がされています。

東京書籍は、随所に「学習問題」が提示されており、児童が、見通しをもって問題解決的な学習を主体的に進めていくことができるようになっています。また、5年生上82ページのように「〇〇さんの話」を掲載し、人々の姿や思いに共感しながら学べるように工夫されています。

教育出版は、3年生92～93ページのように子どもたちを引きつけるような魅力的な導入教材を掲載し、子どもたちが学習問題を追及しながら、主体的に学習を進めることができるよう工夫されています。

観点3(3)「内容の構成」においては、3者とも学習内容が系統立てられ、適切に配列されています。

東京書籍は、4年生50ページのように、各学年で単元後半に「いかす」を設け、これまでの学習をもとに、自分たちでできることを話し合う活動を通して、社会参画の基礎を培うことができるよう工夫しています。

教育出版は、4年生50ページのように、各学年で単元後半に「ひろげる」を設け、児童の興味関心に応じて扱ったり、発展的内容として学習したりすることができるように工夫されています。

日本文教出版は、5年生121ページのように、「さらに考えたい問題」を設定し、考えるための複数の資料を示すことで、発展的な学習に対応できるように工夫しています。

観点4「使用上の便宜」については、3者とも、社会科用語の読み方や意味が分かるように工夫されていたり、タブレットPC等の使用を想定して、デジタル資料へのリンクができるようになっています。

観点5「印刷・造本等」については、3者とも、鮮明に印刷がされているとともに、カラーユニバーサルデザインによって編集されています。また、表紙には防水加工がされ、長期間の使用に耐える堅ろうさを備えています。特筆すべきものとしては、東京書籍は、5・6年生が2冊に分冊され、持ち運びにも配慮されています。

次に、特に調査を要する事項についての報告させていただきます。調査専門委員会報告書の裏面をご覧ください。

事項1「地域の実態を生かすことができる内容になっているか」については、3者とも、3年生では名古屋市、4年生では愛知県の実態を授業に生かすことができるような内容に

なっています。

特に東京書籍、教育出版では、3年生の最初の単元で、学校のまわりの様子から市全体の様子へと発展していくように学習が展開されており、名古屋の実態に対応しており、子どもたちの生活経験にも合っています。

事項2「観察や見学、聞き取りなど体験的な調査活動に取り組みやすい内容になっているか」については、調査活動の進め方について、写真やイラストを多く活用するなど、具体的で分かりやすい工夫がされています。

とりわけ東京書籍は、3年生71ページや4年生37ページのように「学習計画を立てよう」で、調べる視点や聞き取ったことのまとめ方をはっきりと示しています。日本文教出版でも、3年生13ページや4年生45ページのように「学習の計画」として、調査の視点やまとめ方を示しており、どちらも調査活動に取り組みやすいようになっています。

事項3「社会的事象について多角的に考えることができる内容になっているか」については、3者とも、様々な立場の人物を紹介したり、複数の資料を提示したりして、社会的事象について多角的に考えるための工夫がされています。

教育出版は、5年生154ページのように複数の資料を取り上げ、比較したり関連付けたりすることを通して社会的事象を多角的に考えることができるように工夫しています。

事項4「グローバル化する国際社会に対応した内容になっているか」については、我が国と関係の深い国々や多国籍・多文化社会や国際社会における我が国の果たす役割を取り上げるなど、グローバル化する国際社会に対応するよう工夫されています。とりわけ、日本文教出版は、6年生「世界のなかの日本とわたしたち」の学習で250ページにあるように国際交流で東京2020オリンピック・パラリンピックに関連した内容を取り上げることで興味関心を高めたり、国際理解・親善を促したりするように内容を工夫しています。

なお、社会科の教科用図書につきましては、市民の声として38通のご意見をいただきました。机上の水色のファイルにございますので、ご参考にしてください。

以上、社会の教科書について、報告させていただきました。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「社会」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(西淵委員)

社会科の学習が今、学習指導要領で言われているアクティブラーニング、いわゆる対話的な深い学び、そこを逆にやりやすい教科じゃないかな、と。子どもたちに問題解決的に考えさせて、それを追求していくことの方が大事な教科ではあると思いますが、特に教科書で調査しておられて、こういう点はアクティブラーニングを意識した形で表記されているなあ、と思われる箇所がありましたら、ちょっと示していただきたいと思いま

す。調査専門委員会での議論などを紹介していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

(中川指導主事)

報告の中でも申し上げましたが、例えば、東京書籍を例にとると、単元全体の構成が大きくわかりやすいように、5年生の上を見ていただくと、世界の中の国土というのが最初に出て参りますが、8ページの所につかむ、という課題、単元全体の課題を大きくとらえる所が出て参ります。そしてそれが、学習が進んでいきますと、調べると大きく書かれておりまして、10ページも調べる、11ページも調べるというような活動があつて、最後15ページのところにまとめるということで、単元全体を見通した、今単元の中のどこを学習しているかがわかりやすい表記がされております。ここにはありませんが、他の単元等を見ますと、さらにこれを広げていくだとか、まとめる、とかいうところで、それを発展的に扱っていくところは、今は東京書籍を例にとりましたけども、言葉が違いますが、日本文教出版、そして、教育出版も同じような構成で非常にわかりやすくなっているということが一つ言えるかと思います。

それと報告の中でも申し上げましたが、特に話し合いの活動につきましては、登場するキャラクターがですね、いろいろ話し合いをする場面が随所に出て参ります。こういったキャラクターの吹き出しだとか、まとめたノートのようなものがたくさん出て参りますが、こういったところが特に話し合い活動だとか、自分の考えを深めていくというところで、対話的で深い学びということを意識した教科書になっているというふうに言えるところになります。以上です。

(西淵委員)

ありがとうございます。私もそういう目で比較してみたのですが、最初のつかみという言い方は悪いのですが、問題解決学習への興味関心をパッと引くところ構成は東京書籍などが大きい写真を取り上げながらやっていたりしていいのではないかと思います。

反面ですね、対話的と言うときに、この教育出版なんかはですね、子どもが考える例が挙がっていて、割と縦に順番に東京書籍は順番に並べてあるのですが、子どもたちを意識して、丸く話し合っているような配列をしていますよね。

一番わかるのは、教育出版なんかは、小学校5年生の60ページを開いていただくと話し合いの場面が、皆が考えるようになっています。

一方、東京書籍を見ると、どこを見てもいいのですが、だいたいこう、全部じゃないですが、やっぱり順番にこう並んで、話がだんだん進んでいく配列をとっているのものですから、このへんはもう少し工夫の余地があるかなと思いました。

ただ、学習の進め方の例えば、東京書籍の5年の上の24ページなんかを見ると、つかむ学習のところなどとか、調べる学習で写真が入っていますね、こういうところは、学習の

仕方を対話的にして、アクティブにしていこうという工夫が見られますので、そういう形で学習の進め方を利用しながら子どもたちに調べる楽しさを味わわせるように、していただけるには東京書籍がいいんじゃないかなと思いました。

(小栗委員)

今回はですね、市民の声も色々ありまして、そこももちろん見させていただいたんですが、一方でグローバリゼーションという視点でちょっと自分の考えをお話させていただこうかな、と思っています。

非常に世界の中で日本がどうあるかっていうことで、ちょうど先ほどご説明がありました、世界の中の日本という項目に着眼して見させていただきました。それぞれわかりやすいですし、さきほど観点4のところの日本文教出版ですか、非常にオリンピックのところも写真で大きく取り上げられて、分かりやすいな、と思ったのですが、トータル的に見たときに東京書籍の6年生の84ページ、それから、教育出版でいくと232ページ、日本文教出版でいくと230ページになるかと思いますが、全体の構成として東京書籍はですね、国との比較のところとかですね、それから全体的な写真とか、中身でいくとこの中では、バランスがとれていたのかなと感じました。そういう視点で見たときには東京書籍がいいかなと思いました。

(鈴木教育長)

あとよろしいでしょうか。

西淵委員からは主体的・対話的な深い学びについて着目したご意見で、東京書籍が。小栗委員からはグローバリゼーションという視点が東京書籍の扱いが良いのではないかなというご意見がございました。

ご意見も出尽くしたようですので、また資料の方に着目したいと思いますが、各学校における調査研究報告書からは東京書籍の教科書がすべての項目で高いポイントが付けられています。また、調査専門委員会の研究報告書におきましても、特筆すべき点が、東京書籍のものが5項目において特筆すべきものが、教育出版等と比較しまして一番多い特筆すべき点が挙げられているという状況でございます。

そのようなことから、社会については、東京書籍株式会社のものを採択してはいかがかと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(船津委員)

ひとつだけ。決まったところで大変恐縮なんですけど、決まったものは決まった結構です。

3年生が大事だと思っていて、3年生の教科書を注目して拝見していたのですが、3年生になると自分たちの町について調べ始めたりとか、それから職業についても、随分具体的な話が出てくるので、その採択された教科書を是非お使いいただくときに、どの教科書も甲乙つけがたいほど私たちの町についてとか、地図の見方とか、それから先日採択しました地図帳との関連とか考えると使いやすさとそれから、町のこと、名古屋市のことをよく知ってもらうタイミングが、自分たちの町っていう点でいうと3年生の社会が大事だと思います。この教科書をお使いいただいて、現場で名古屋市に愛着を持って我が町って思ってもらえるような教育をしていただきたいということと、キャリア教育という点で言うと、その町で働く人たちの取材、先ほど西淵委員がおっしゃったようにアクティブラーニングになるかと思うのですが、先生方お忙しいかと思いますが、是非現場とつながっていただいて、たくさんの職業と豊かな名古屋市っていうのを勉強してもらえるような教科書の使い方を採択された教科書を使ってしていただきたいなって願っておりますということだけお伝えしたいと思いました。

(鈴木教育長)

船津委員からは、この採択については、東京書籍株式会社のもので構わないけれども、とりわけ小学校3年生の教育において、我が町についての理解と愛着を深めるようなあるいは、働く人とのつながりを持って、キャリア教育につながるような視点での教育を是非お願いしたいという意見をいただきました。

それでは、続いて、「生活」について説明をお願いします。

(瀬瀬指導主事)

生活の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、光村図書、啓林館、日本文教出版の8者から発行されています。全小学校での研究結果については資料④黄色横長ファイルの生活のページをご覧ください。次に、調査専門委員会による調査結果については、資料②黄色ファイルの生活のページをご覧ください。

観点1「学習指導要領との関連」においては、8者とも学習指導要領の改善された内容が含まれています。特筆すべきものとしては、東京書籍は、上18・19ページのように思いや願いを実現していく学習の過程が写真や挿絵で随所に示されています。大日本図書は、上64・65ページのように諸感覚を活用することを意識させ、児童が体全体を使って対象と関わることを促すように配慮されています。教育出版は、上16ページのように対象と繰り返し関わる体験活動が随所に設定されており、それぞれのよさに気付くことができる内容になっています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」においては、8者とも郷土の文化への意識が高まるよう工夫されています。特筆すべきものとしては、大日本図書は、下64ページの名古屋市科学館や名古屋城のように名古屋市の写真が複数掲載されており、町への愛着

が育まれるように配慮されています。学校図書は、下 28 ページのように地域の祭りや行事の具体例を示すことで、身近な地域の活動に結び付くように配慮されています。光村図書は、上 60・61 ページのように各地域の伝統行事を示し、児童が身近な伝統文化に目を向けるきっかけとなるように配慮しています。

観点 3 (3)「内容の構成」においては、8 者とも幼児期の教育との接続・関連を考慮した資料を掲載しています。特筆すべきものとしては、大日本図書は、上巻巻頭の 6・7 ページのように、幼児期に身に付けた資質・能力を生かし、児童の意識に沿った活動が展開できるように配慮されています。光村図書は、上 6・7 ページに幼児期の学びの内容を位置付けたり、以降の学習に結び付けたりできるよう、構成されています。

観点 5「印刷・造本等」においては、8 者とも分かりやすい表記をしています。特筆すべきものとしては、大日本図書は、下 113 ページのように仕掛けのあるページを設け、活動につなげられるように配慮されています。教育出版は、上 28・29 ページのように、児童にとって判読しやすい文字の大きさになっており、レイアウトや配色については、色覚等、様々な特性に配慮されています。

続いて、生活科における、特に調査を要する事項について報告させていただきます。調査専門委員会の裏面をご覧ください。

事項 1「地域の人々、社会及び自然を生かすとともに、それらを一体的に扱うように工夫されているか」においては、8 者とも地域の自然を生かしたり、地域の人々との関わりを意識したりした内容となっています。特筆すべきものとしては、東京書籍は、下 78・79 ページのように、人々との関わりとして、具体的なインタビュー例が随所に掲載されています。

信州教育出版社は、下 26・27 ページのように、長野に伝わる文化、行事が随所に取り上げられ、日常生活と地域との関わりが描かれています。

事項 2「見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動となるように工夫されているか」においては、8 者とも、分析的・創造的に考えることを意識した内容が取り入れられています。特筆すべきものとしては、大日本図書は、上 78・79 ページのように、児童自らが比較して考えたり、伝え合いによって他者と考えを比較したりすることで気付きが質的に高まっていくように配慮されています。教育出版は、上 33 ページのように奇数ページ右肩に見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動につながる思考のヒントが示されています。光村図書は、上 49 ページのように、児童の思考を促す「どうすれば〇〇できるかな」という問いが随所に入っています。

事項 4「生活上必要な習慣や技能の指導が行えるように工夫されているか」においては、8 者とも、新学習指導要領の理念を受けて、学ぶ力の向上につながる紙面構成が工夫されています。特筆すべきものとしては、学校図書は、下 104 ページ～のように 巻末に、「学び方図かん」があり、「話す」「聞く」「相談する」「発表する」などの学ぶ力を高めるための技能が示されています。啓林館は、下 109 ページ～のように、巻末に、「がくしゅうずか

ん」があり、調べ方や記録の仕方、友達との考えの深め方など、学ぶ力を高めるヒントが複数掲載されています。日本文教出版は、下 113 ページ～のように、巻末に、「ちえとわざのたからばこ」があり、考え方や観察の仕方、用具の使い方などの技能が掲載されています。

なお、生活の教科書に対しましては、『市民の声』としてご意見を 3 通いただいております。机上にあります「市民の声」の青ファイルに綴じてありますので、ご参考にしてください。以上です。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「生活」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(鈴木教育長)

特にご意見も無いようですが、生活につきましては、たくさんの者からでておりますが、提出されております資料に戻って見たいと思います。各学校から出されております、研究報告書におきましては、大日本図書のものがすべての点において他者よりも高い点が付けられております。また、専門委員会の報告書につきましても大日本図書の教科書が、特筆すべき点が 6 点挙げられておりまして、それ以外の 2 点あるいは 1 点、0 点に比べてたくさんの特筆すべき点が指摘をされている状況でございます。

それらのことから判断すると、特にご意見も無いようですので、大日本図書株式会社のものを採択してはいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、令和 2 年度使用小学校用教科用図書「生活」につきましては大日本図書株式会社の教科書を採択したいと思います。

続いて、「保健」について説明をお願いします。

(小野田指導主事)

「保健」の教科書は、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研の 5 者から発行されています。各小学校の研究調査結果につきましては、資料④黄色横長ファイル保健のページをご覧ください。調査専門委員会の資料②黄色ファイルの保健のページをご覧ください。

はじめに調査専門委員会報告書の保健についてご説明をさせていただきます。

観点1「学習指導要領との関連」では、東京書籍の5・6年の5～8ページをご覧ください。学習活動として、主体的に思考・判断・表現したり、仲間と話し合ったりしながら課題を解決していく学習を行うことができるようになっていきます。大日本図書の5・6年の6、7ページをご覧ください。学習ゲームが設定されており、キャラクターを探す中で主体的要因、環境要因に関わる課題を発見することができるようになっていきます。

観点2『『名古屋市教育振興基本計画』との関連』では、東京書籍の3・4年の4～7ページをご覧ください。写真やイラストで、日本の伝統的な行事や、身近な地域の生活場面を掲載し、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度を養うことができるようになっていきます。光文書院の3・4年の38ページをご覧ください。「体を動かそう」では、全身を使った運動例として昔遊びを提示することで、伝統的な遊びの有用性に気づき、伝統や文化を尊重する態度を養うことができるようになっていきます。

観点3（1）「内容の選択」では、東京書籍の3・4年の24～29ページをご覧ください。「体の成長とわたし」では、繰り返し「個人差」について記述したり、自分の体の成長を理解したりすることで、個人の価値や生命を尊重する態度を養うことができるようになっていきます。学研の3・4年の17ページをご覧ください。職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように、学校医などの専門家を登場させるとともに、学校での様々な保健活動を取り上げています。

観点3（2）「内容の程度」では、大日本図書の3・4年の10ページをご覧ください。導入となる最初の活動では、児童に身近な題材を設定することにより、児童が学習内容を身近なこととして捉えることができるようにしています。光文書院の5・6年の11ページをご覧ください。自分の健康課題の解決のために、学習したことを使って考える活動を随所に配置することで、教科書での学びが日常生活につながっていることへの理解を深め、学びを持続することができるようになっていきます。

観点3（3）「内容の構成」では、文教社の5・6年の10ページをご覧ください。不安やなやみへの対処法として「腹式呼吸法」を取り上げています。自然をイメージできる記載を通して、自然を感じながら自分なりの活動を主体的に行うことができるようになっていきます。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」では、東京書籍の5・6年の29～31ページをご覧ください。インパクトのある写真や資料性の高い図版などから、児童が課題を見付けたり、気付いたりすることができるようになっていきます。大日本図書の5・6年の31ページをご覧ください。「やってみよう」では、保健領域の技能を習得することができるように、手当の仕方を分かりやすく示しています。

観点5「印刷・造本等」では、大日本図書の3・4年の8、9ページをご覧ください。単語の途中で改行せず、読みやすい位置で改行しています。また、ページ番号やインデックスを単元のカラーで統一して、単元ごとのまとまりが分かりやすくなるようにしています。

お手元の資料の裏面をご覧ください。

事項1「健康的な生活習慣の形成に結び付くように工夫されているか」では、大日本図書の5・6年の6・7ページをご覧ください。学習ゲームを用い、身近な生活と保健学習との関わりを考えることができ、自分の生活と関連付けながら学習を進めることができるようになっています。文教社の3・4年の15・16ページをご覧ください。学習したことを基に「新しい自分にレベルアップ」するための考えをまとめたり、「わたしの宣言」を書いて伝え合ったりする活動を通して、健康的な生活習慣に結び付けることができるようになっています。

事項2「他教科や運動領域との関連が図られているか」では、東京書籍の5・6年の20ページをご覧ください。「つなげよう」というコーナーを設け、他教科との関連を示し、系統的な理解や知識の定着を図ることができるようになっています。大日本図書の3・4年の18ページをご覧ください。実際に取り組むことのできる運動を紹介することで、運動領域との関連を図っています。

事項3「心の健康について課題を見付け、解決を目指す活動が行えるようになっているか」では、学研教育みらいの5・6年の14ページをご覧ください。呼吸法、体ほぐしの運動、呼吸法といった実習を取り入れ、心の健康課題に対処する活動が技能として身に付くようにしています。光文書院の5・6年の18・19ページをご覧ください。呼吸筋のストレッチ、見方の転換、悩みの相談先など、心の健康に関する課題の対処法が数多く紹介され、実践できるようになっています。

事項4「今日的な健康問題について理解が深まるように工夫されているか」では、大日本図書の5・6年の54・55ページをご覧ください。現代的な諸課題を多角的に学ぶことができるよう、学習内容に関連付けた資料を精選して掲載しています。東京書籍の5・6年の62ページをご覧ください。毎時間の学習の最後に、今日的な健康課題について理解を深めることができるよう、学習内容に関連した「資料」を充実させています。

なお、教科書展示会における「市民の声」につきましては、保健については9通ご意見が寄せられておりました。机上にあります青いファイルに綴じてございますのでご参考にしてください。

以上、保健について、報告させていただきました。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「保健」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(小嶋委員)

これまでどの教科も調査研究報告書の観点別の傾向という各学校から出されたご意見のも圧倒的に一者が、あと専門委員会の報告の評価というものも一致していて、迷うことがなかったのですが、保健の教科書どの者もよく考えられていて、すばらしいと感心するの

ですが、各学校における評価の数としては、東京書籍が一番なのですが、中でも、内容の程度は大日本図書が一番多い。専門委員会の報告書の観点からも、大日本図書の方が、一つ評価が多いと思うのですが、拝見しますとどちらも甲乙つけがたいと思うのですが、保健で大事なのは、学校で、クラスで話し合って考えるということが大事だと思うのですが、お子さんが手にとって次の道徳とも同じようなものかなと思うのですが、読んで自分自身で考えるのってということも、とても大事だと思うのですが、そういうものとしてみたときに大日本図書も良いのかなと思ったりいたしました。ただ、とても甲乙つけがたく、写真などが東京書籍はとても見やすいので、先生方のご意見をお聞きしたいです。

(鈴木教育長)

今の話ひとつだけ、専門委員会の研究報告書における特筆すべき点ということなのですが、東京書籍のものは4つ、大日本図書のものも4点、ですので同一ということかと思いますが、しかし、大変見やすいということで大日本図書も優れているかな、というお話もございました。

(船津委員)

意見というか、感想ですが、小嶋委員がおっしゃるとおり、どれも写真入りで子どもがたくさん出てきて、非常にわかっておいて欲しいことがわかりやすい工夫が反映されていると思いました。ただ名古屋市としては各学校にスクールカウンセラーを配置しようと言っているので、スクールカウンセラーという表現が中に入っている方がいいかなと思いました。そうやって考えると、学研さんと大日本図書さんは、一番最初のところで、いろいろ聞いてみようという対象者にスクールカウンセラーが入っていたりとか、残念なのは、そういうものの中にスクールカウンセラーの出番がほとんどないという感じで、1回か2回なんです。でもせっかくだったらスクールカウンセラーさんが入っているのがいいかなと、東京書籍は初めのところに学校医さんとか出てくるんですけど、スクールカウンセラーさんの出番が無かったのが、少し残念だな、と思いました。

一方で、東京書籍さんの場合は、どの保健も生活に関わって、毎日のことなので、外に向かって自分で調べてみよう、などの工夫がされているんですが、本当にその言葉を入れて検索したら、出るよねってということで着実につながるのは東京書籍さんはすごく工夫されていて、調べようってところにも言葉が入っているので、他のところも調べてみようとおっしゃるんですが、何々についてはこういうふうに調べてみようって話で、「ふーん」で終わってしまう感じが少しするので、そういう繋げるところの工夫は東京書籍がけっこう面白くされていて、もうひとつ言うと、他の教科とのつながりみたいなことが、時々、それは3年生の社会とか、保健をしながら他の教科とつながっていく感じで、保健ってやっぱり学校でも家庭でも生活の基盤になるので、そこから他の教科へ関心を持てるような工夫がされているのが面白いなと思いました。感想です。

(小嶋委員)

先ほど、大日本図書もいいのではないのではないかと発言をされていて、また違う意見を言うのですが、一方で私が東京書籍で特筆して良いと思う点がありまして、これは5、6年生の16ページに、リラックス状態を体験しようということで、これが実習として挙げられていて、とても具体的で実習でも、クラスみんなでもできると思いますし、これを読めば自分自身でも試すことができ、リラクゼーションを自分でコントロールしてできるようになることはものすごく大事なことだと思うのですが、これが授業で十分できなかったとしても、5、6年生のお子さんが自分でこれを体験をすることができると、大きな強みになると思います。そういう点では、東京書籍はすばらしい取り上げ方をされているな、と思いました。

本当にどれも素晴らしく選ぶことが難しいので、委員の先生方の意見もお伺いしたいと思います。

(船津委員)

お詫びと訂正がございます。

私が先ほど、スクールカウンセラーのところでお話をしたんですが、他の教科とつながっていて学習という点で面白いと思ったのは、学研さんでした。

(鈴木教育長)

東京書籍、大日本図書、あるいは学研の教科書について様々な意見が出ております。

特筆すべきところで、今、リラックスの体験について、東京書籍の取り扱いがいいのではないかと、あるいは船津委員からは他の教科につながるという意味での工夫で学研が優れているのではないかと、東京書籍では調べる工夫などについては、導き方がいいのではないかと、というような意見が出ております。

(梶田委員)

東京書籍と大日本図書を比べますと、東京書籍はやたらでかいな、重たいなという感じで。大日本図書は軽くて、小さくてという感じで。それと東京書籍は文字が小さいところがいっぱいあって、見にくいなと思うのですが、やはり、私は先生方が使いやすい教科書がいいなと、そっちを優先したいなと思います。以上です。

(鈴木教育長)

だいたい意見が出尽くしたかなと思います。様々な意見がありましたけども、資料を再度確認したいと思います。各学校から出されている研究報告書から見ますと、東京書籍の教科書が内容の程度という観点を除く6つの観点で他者よりも多くのポイントがついており

ます。内容の程度につきましては、大日本図書の教科書が最も高い点数がついているという状況でございます。また、専門委員会の研究報告書からは、こちら先ほどお話がありましたが、東京書籍と大日本図書の教科書がそれぞれ4つの特筆すべきことということで報告が出されています。意見の中で東京書籍の教科書が調べる工夫が優れているとか、リラックス体験、呼吸法などを紹介したりしている点が良いのではないかとのご意見等がございました。また、現場の先生方の使いやすさということで言いますと、各学校の報告書から出ている研究報告書で、東京書籍のものが他者を圧倒するような形でポイントが高いということから考えまして、東京書籍の教科書を採択してはいかがと思いますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

それでは、令和2年度使用小学校用教科用図書「保健」については、東京書籍の教科書を採択したいと思います。

続いて、「道徳」について説明をお願いします。

(小島指導主事)

道徳は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの8者から発行されています。全小学校での研究結果につきましては④のファイルの道徳のページをご覧ください。

次に、調査専門委員会による調査結果について、特筆すべきものをご報告いたします。②のファイルの「道徳」の報告書をご覧ください。こちらの報告書の観点については、各者6年生の教科書を使って説明します。

観点1「学習指導要領との関連」については、道徳の教科化において重要とされる、「自己の生き方についての考えを深める」という視点での編集について検討しました。

光村図書は49ページのように、教材の始めに、吹き出しが掲載され、児童の生活経験の振り返りを促す問いから始まり、本文の最後には、余韻を残し、議論を活性化させる工夫がされています。光文書院は、8ページにあるような、「問いをもつ」「考える」「まとめる」「広げる」発問がどの教材にも設定されていることで、自己の生き方について考え、それを実生活で活かしたり、深めたりできるように構成されています。

観点2「本市教育振興基本計画との関連」については、社会性を備え、他者を思いやり、協力・協調する、という点で、どんな教材が取り上げられているかについて検討しました。教育出版は、グローバル化が進む社会において、進んで国際親善に努めようとする態度を養うことができる教材として、132ページでは偉人の功績について。136ページでは

現代における自治体の取り組みを取り上げるなど、多面的・多角的に考えることができるようにされています。日本文教出版は62ページのように、現代的・社会的課題への対応として、特に防災・防犯などの安全教育に重点を置いた教材が取り上げられています。

観点3の(1)「内容の選択」の観点では、児童の発達段階が考慮された内容が適切に選択されているかを検討しました。廣済堂あかつきは、58ページのように、オリンピック、パラリンピックなど世界で活躍したアスリートを取り上げるなどスポーツを題材とした教材が複数掲載されています。小学校時代に描いた夢や挑戦を支えた気持ちを考えることで卒業を控える児童が夢に向かっていこうという気持ちを高められるようにしています。東京書籍は、65ページのように、生命の尊さについて深く考えることができるようにするために、複数の教材が掲載されたり、動物愛護や戦争・紛争など様々な視点の教材が配置されたりしています。

観点3の(2)「内容の程度」については、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えるられる内容か、多面的・多角的な見方や考え方ができるか等、効果的に編集されているかを検討しました。学校図書は、日本だけでなく世界各地の出来事や、老若男女、様々な登場人物を取り上げています。また、分冊8・9ページのように、教材を通して考えたことを記述するスペースや、書籍の紹介、さらには著名人からのメッセージ紹介などが取り上げられており、道徳的価値を多面的・多角的に考えることができるような配慮がされています。日本文教出版は、8ページにあるように、精一杯生きた主人公の生き方から、人間として生きる喜びや勇気を感じることができる読み物教材を取り上げるなど、発達段階にあった内容を掲載しています。

観点3の(3)「内容の構成」については、特に振り返りの学習や評価に関わる内容が適切に編集されているかという観点で検討しました。学研の6ページには「My profile」が設けられ、今の自分を見つめることができるようになっています。また、同じく学研の168ページには、「心の宝物 学びの足あと」が設けられ、意識や態度の高まりを評価することができるようになっています。廣済堂あかつきの別冊道徳ノートの44ページからは、話し合いや体験活動の記録などを残すことができるようになっており、自分を見つめることができるようになっています。さらに巻末の「自分を見つめ、考えよう」では8つの視点から自己評価できるような工夫がされています。

観点5「印刷・造本等」の観点について、教科書の大きさは、各者の考えに合わせてA4版やA4変形版など様々ありますが、教科書を大きくすることにより、イラストや写真を大きくしたり数を増やしたりして教材の理解を増やしています。その中で、光村図書は、最も小さいB5サイズですが、持ちやすく、机上で開いても、ワークシートに記述する場所を確保しやすい大きさになっています。また、オフホワイト色の用紙を使用していることから、目への配慮がされています。

続きまして特に調査を要する事項1から4については、5年生の教科書を使って説明します。

事項1「発達段階を考慮した題材の扱い」では、8者とも、全ての内容項目を網羅した内容となっていて、児童の発達段階に合ったものが扱われています。

事項2「道徳的価値を身近に感じることができる題材の扱い」では、掲載されている題材について比較しました。教育出版は、79ページのように、児童にとって身近な場面を取り上げ、体験的活動を取り入れることで、道徳的価値を実感したり、実生活でも活用したりできるように工夫してあります。

事項3「自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりできるように工夫されているか」では、学んだことの記録の仕方について比較しました。光村図書は74ページのように、「学びの記録」が掲載され、1時間ごとに学んだことや感想を記述して、自分の成長や学びの変化など自己評価の記録を残すことができるように工夫されています。

事項4『いじめ問題・生命の尊さ』の扱い」では、8者とも重点項目として扱っています。そこで、いじめ問題・生命の尊さをより深く考えさせる内容の工夫で比較しました。日本文教出版は、86、87ページにあるように、特設ページ「心のベンチ」でいじめの四層構造を取り上げています。中でも「傍観者」にスポットを当てることで、より深く、広く考えられるように配慮されています。

なお、道徳の教科用図書につきましては、「市民の声」としてご意見を65通いただいております。机上にございます「市民の声」の青ファイルに綴じてありますので、ご参考にしてください。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

(鈴木教育長)

説明が終わりましたので、「道徳」の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。

(梶田委員)

私も何回かこの教科書採択に携わらせていただいて、ずっと一貫して先生が一番良いと言った②の研究報告書を非常に重視したと思っております。今回の道徳については、教育出版が単純に合計するのがいいのかどうかはありますが、合計すると◎が755、二番目の光村図書が503ということなんですが、一方で専門委員会を見ますと、これがねじれておりまして、光村が特質すべき点が5個、教育出版が2個、東京書籍の3個よりも少なくなっているとうことです。前回2年前にこの道徳の教科書を採択したときにも、やっぱり学校の先生の意見を重視すべきという意見も複数あったと思うのですが、ただ、前回もそうでしたが、教育出版は、どうしても読んでいて、最後のこの問いかけが答えを探してしまうような、私自身も本文をもう一回みて、このことだなんていうのが、答えをさがしてしまうことになり、結局、本来の道徳の目的の話し合い、考えそして、子どもたちの多様性

を認め合うという目的からすると、ちょっと趣旨が違うのではないかと感じております。
以上です。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。現場の各学校からの研究報告書と調査専門委員会の研究報告書、単純比較はできないけれど、各学校からの評価で言うと教育出版、専門委員会の報告書からいきますと光村図書の評価が高いというお話がありました。

一方で、光村図書のものの方が考えさせるという意味で良いのではないかというお話でした。他にいかがでしょうか。

(西淵委員)

私もこれ学校の意見と専門委員会の意見が違っているものですから、特に慎重に2者を比較しながら、自分なりに考えてみたものがあります。

基本的に結論から言うと、先ほど梶田委員が言われた少し自分で裏付けられるのではないかと、比較したということで聞いていただきたいのですが、例えば、同じ教材が出ているのがあります。3年の「よわむし太郎」というのが、目次を見ていただくとわかるのですが、最後の方の記述を比較してみますと、光村図書が「じっと太郎を睨んでいたとの様は、やがてゆっくりと弓を下ろしました。との様は、馬にまたがると、しろに向かって帰っていきました。」という記述です。

一方で、教育出版は、「じっと太郎をにらんでいたとの様は、しばらくすると、ゆっくりと弓を下に向けました。おまえが子どもたちを思う気持ちとそのゆうきにめんじて、この鳥をとらないことにしよう。との様は馬にまたがると、しろに向かって帰っていきました。」という記述になっているのですね。

ここで子どもたちにとらえさせたい道徳的価値感、自ら善と考えることを勇気をもって行うという行動の大切さなんですけども、それを殿さまのお前たちが子どもたちを思う気持ちとその勇気に免じて、この鳥をとらないことにしよう、と言ってしまっただけでは、読んだ子は、「そうか」を思うだけです。

例えば、4年生の「ブラッドレーのせい求書」がありまして、光村図書は「お母さん、ごめんなさい。と言って、さっき受け取ったばかりのお金を、お母さんの手に返しました。」と。

ところが、教育出版は「お母さん、ごめんなさい。このお金は返します。これからは、せいきゅう書なしで、お母さんのためになんでも手伝います。」とここまで書いてある。

そうするとここもですね、前のところで、お母さんごめんなさいと言ってさっき受け取ったばかりのお金をお母さんの手に返しました、で留めておけばですね、子どもたちはあつ、お母さんにどんなことをしていけばいいのか考えるわけですね、ここで。

ここがちょっとなんて言うのですかね、梶田委員が言われたように、もうちょっと。考

えさせるのを書いてしまっているのです、教材として。そこが残念じゃないかという気がします。

それと別の観点で、例えば教育出版の6年生の一番最初の目次を見ていただくと、こういう組み立てになっているのですが、くじけず努力するというのが二つ教材が出てきます。相手の立場に立ってというのが一つあって、人間関係を作るという項目に対して4、5と教材を与えるのですが、これを勉強する時には、順番にやっていこうと思うと、同じ価値観を2週続けてやるわけですよ。普通だと、しばらく経って、色んなことをやった方がこれまでの私の経験では良いのではないかと思いますのですが、同じことを2週続けて同じ道徳的価値観をやるので、先生の教科書の使い方次第で変える事はできるのですが、そういうことも若干ありですね、今回、学校は教育出版の方が良いのではないかという考えが多いようですが、私も梶田委員の意見に賛成で少し考えさせるようなところへ持っていくようなことで考えると光村図書の方が良いのではないかと思います。

以上です。長くなりました。すみません。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。出された資料、それからこれまでのご意見をまとめますと、教育出版又は光村図書の選択になりそうかなというふうに思います。

今二人の委員から出された意見をまとめておきますと、道徳という授業の中で子どもたちに考えさせる、という部分で答えを示しておいて、それに肯定させるような形に対して、もう少し深く考えさせる扱いになっているのかなというのが光村図書、というようなご意見だったかと思います。

他の委員からはいかがでしょうか。

(小嶋委員)

私も実は光村図書がいいと思っておりまして、その理由は先ほどの保健でも述べたように、道徳という教科はクラスルームで話し合うことがとても重要だと思うのですが、お子さん自身がこの教科書を読んで、感じることを考えることがとても重要だと思うのです。

教科書である以上、ある程度のリードする部分も無くてはいけないと思うのですが、そのバランスっていうのは光村図書がいいのではないかと思います。リードする狙いが何であるのかを示唆しながら、またその授業で扱うポイントをある程度示しながら、でも余地がかなり残されているっていう点でバランスが良く、良いのではないかと感じております。

(船津委員)

一緒の話になり大変申し訳ないのですが、道徳って結局読むじゃないですか。読むまでに国語の力って大事だと思うんですね。で、国語ができないと道徳に入っていけないようだと、道徳って駄目だと思っていて、今、先生方がおっしゃったみたいな、ヒントとか、

読みたくなるような、これを読んでいくときのきっかけみたいなものがあると読みやすいかなと思う時の、入り方が本に対してどうか、生活のところに結びついて質問が立っているのが光村図書さんかな、と思います。これについて考えようみたいな形とかこれどうなっているのかなとか、例えばギリギリまで追いつめられるとその人の人間性が見えてくよね、みたいな発話があって、その発話自身がわかって読めるかな、っていう、一つのクラスにもいろんな子たちがいるときに難しい発話になっているかなというのが、教育出版さんかなと思って、道徳がそれぞれに心に染みていって、子どもたちの生活が豊かになる事を考えると、ひょっとして5・6年生とかを見ると言葉甘いかもしれないけど、あるかなーとか、どうかなーっていうふうに問いが立っている方が、小学校時に国語があまり得意ではなかった自分から考えると、その方が読んだときに、読みやすいかな、っていうのが光村図書さんの方が、私は個人的には入りやすいという印象を持ちました。

(小栗委員)

今皆さんの委員がおっしゃられた点は、同感に思いました。細かい点で気になったことが、取り上げられている中身で、市民の声からも、例えば、野球でいうと長嶋茂男さんを誰も知らないという意見もあって、私も野球は好きなのですが、今の子たちがその題材で本当に理解できるのかなっていうところも一つ感じました。

自分も光村図書さんが良いと思うのですが、表紙を見たときにすごくここに響いたんですね。光村図書の表紙を見ると「きみがいちばんひかるとき」っていうふうに書いてあります。この言葉が僕はすごく響きまして、やっぱり子どもさんたちが誰もが光り輝いて欲しいなと。

特に心が重要な時間になってくるときに、学校の先生たちが、君が一番光るんだよ、光ろうねっていうようなことも心の時間の中で言ってもらうには、とても良いタイトルじゃないかなって思いまして、私も光村図書が良いと思いました。

(梶田委員)

すみません。光村図書が良いという方が多いので、教科書を変えることになってしまうわけですが、市民の声の中に、学校の先生という方がお見えになりまして、教育委員さん教科書を変えないでください。そのための負担が非常に大きいのですということが書いてあって、そのことについては本当に心苦しいのですが、それを押しても私は光村図書が良いと思っております。先生方どうもすみません。

(小栗委員)

梶田委員がおっしゃったことに私も同感なのと、それから道徳の授業を一度見させてもらいました。今回ずいぶん直ってきていると思うのはですね、問いのところが少し減っているのではないかと思います。そういう意味で学校の先生が新しくなり、使いやすいとか

使いにくいっていうこともあるのですが、時間をうまく活用していただいて、本当に有識者にレクチャーを受けたときもそうだったのですが、本当に自分たちが考えて答えを出せるように。それから、もうひとつはお子さんが考えていても、家に帰ったときに親が違う考えを言っていたときにどうするのですかっていう質問を、私がさせていただいたと思うのですが、今回の教科書はやり方によっては本当に自分を確立して考えていけるように時間配分できるのではないかと思いますので、是非そういった指導もあわせてお願いします。

(鈴木教育長)

ありがとうございます。様々な観点からご意見をいただきました。私も道德の学習はそれぞれ子どもの心に入っていくということだと思いますので、他の教科とはまた違って読み物としてどうかとか、今おっしゃっていただいたように表紙から訴えるのもどうかとかそれぞれ大切な視点なのかな、ということで聞かせていただきました。

ひとつだけ、市民の声の中に QR コードがあって、光村図書を聞いてみたら朗読が非常に良かった、というのをありました。声を出してそれを聞くことで非常に楽しい気分になるという市民の声もですね、あーそうかなと共感したところがございます。

そうということで、梶田委員からも指摘がございました。各学校から出されている研究報告書では教育出版の教科書が全 7 項目のうちの 6 項目で最も高い点数。それに順ずるのが光村図書ですが、学習の仕方への支援という項目だけが光村図書が最高点を付けている状況がございます。一方、専門調査会の方の研究報告書を拝見しますと、光村図書が五つの点で特筆すべきものがあるという指摘に対し、教育出版の教科書については特筆すべきものが 2 ポイントという状況がございました。

しかしこの議論の中ではですね、各委員皆さまが今回、光村図書でという、ご意見のように私は承りましたので、令和 2 年度使用小学校用教科用図書「道德」については、光村図書の教科書を採択したいと思いますがよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(鈴木教育長)

ご異議なしと認め、そのように取り扱わせていただきます。

これにて、日程第 2「令和 2 年度使用教科用図書の採択審議について」を終了いたします。これをもってすべての種目につきまして採択が終了いたしました。採択結果につきましては、次の定例会の際に、各委員に一覧表を配布させていただきます。

傍聴の方も含め、ここにおられるみなさまに再度お願いいたします。令和 2 年度使用教科用図書の採択に関しましては、県の指導により、採択結果は 8 月 31 日まで非公開となっております。また、採択などに関わる会議録、資料等につきましても、同様の取り扱い

となりますので、その旨ご理解の上、本日知り得た内容につきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

これで、本日予定の案件は全て終了いたしました。

教育委員会臨時会を終了いたします。

午後 4 時 58 分終了